

令和元年 7月11日

報道機関 各位

水の中の DNA を検出する簡易技術が確立 ～保全や高大連携活動で活用へ～

水の中に含まれる微量な DNA（環境 DNA）を調べ、天然記念物イタセンパラの生息を確認する簡易分析技術が確立しました。

富山大学理学部の山崎裕治准教授の研究グループは、氷見市教育委員会と連携して、2018年の6月と11月に氷見市万尾川で採水した水を専用のフィルターで濾過して DNA を集め、PCR と呼ばれる実験手法でイタセンパラの存在を確認しました。この方法は、実際の生物採集を行うことなく、イタセンパラの生息を確認することが可能であるため、イタセンパラや環境への影響がほとんどなく、保全活動において有効です。また、従来の方法と比べて簡易かつ安全な操作で分析が行えるため、環境教育における活用も期待されます。

この成果は、魚類学雑誌の電子版において先行発表されました。

また、この技術を用いて、イタセンパラを探すことを目的とした高大連携活動（氷見高校探究活動）を次の通り実施します。

つきましては、取材・報道方どうぞよろしくお取り計らい願います。

【日時】7月18日（木）午前9時～午後3時

【場所】ひみラボ（富山大学理学部・氷見市連携研究室）
富山県氷見市惣領 1927

【内容】ひみラボ水族館の水槽の水を用いた環境 DNA 実習

※7月22日（野外調査）、23日に同様の活動を実施します。

【本件に関する問い合わせ先】
富山大学 理学部（准教授・山崎裕治）
TEL. 076-445-6642